

フードバンク福岡



◇ごあいさつ◇

今世界では食品ロスが大きな社会問題となっています。日本でも食料の6割以上を海外に依存していながら、毎年、日本のコメの生産量に匹敵するほどの食品が捨てられています。

その一方で世界では8億人の人が飢餓に苦しみ、1日に1万9千人の子どもたちが飢餓で死んでいます。日本も例外ではありません。6人に1人の子供が貧困と言われ、ひとり親家庭の子どもについては、半分以上が貧困で苦しんでいます。福岡県においては、子供の貧困率は23%に上り、子育て世帯の貧困率は19.9%と全国で4番目に高い数字となっています。

日本はもったいない発祥の国として、ものを大切にする文化がありました。しかし今の世の中はどうでしょうか。食品企業で、スーパーで、家庭で、いろんなところで大量の食べ物が当たり前のよう捨てられています。

このようなもったいないをなくしたい。この食品があればどれだけ多くの人を助けることができるのか。この矛盾した社会を何とかしたいとの思いから、フードバンク福岡を立ち上げることを決意しました。

フードバンク福岡では、単に食べ物を提供するだけでなく、もったいないという心を育て、食べ物を通じて人と人が繋がり、お互いを助け合い、分かち合う心を育み、心の通った温かい社会を作ることを目指しています。福岡市を食べ物と人を大切にする、心の豊かな街になるように皆さんと一緒に活動してゆきたいと思います。



代表 永野 英男

◇フードバンクとは◇



賞味期限内でまだ食べられるにも関わらず、印字ミスや箱が壊れたり、規格外として販売できない食品を、企業・農家・個人などから受け取り、食べ物に困っている人や福祉施設に無償で提供する活動です。

日本では、品質や安全性に問題がないのに処分されている食品が年間500～800万トンもあります。

フードバンクは、この社会にあふれる「もったいない」を「ありがとう」に変える仕組みとして、あるいは新しい社会システムの構築、企業の社会貢献度を手助けする活動です。

◇フードバンク福岡が目指すもの◇

お互いの名前がわかる生活圏での共助・循環

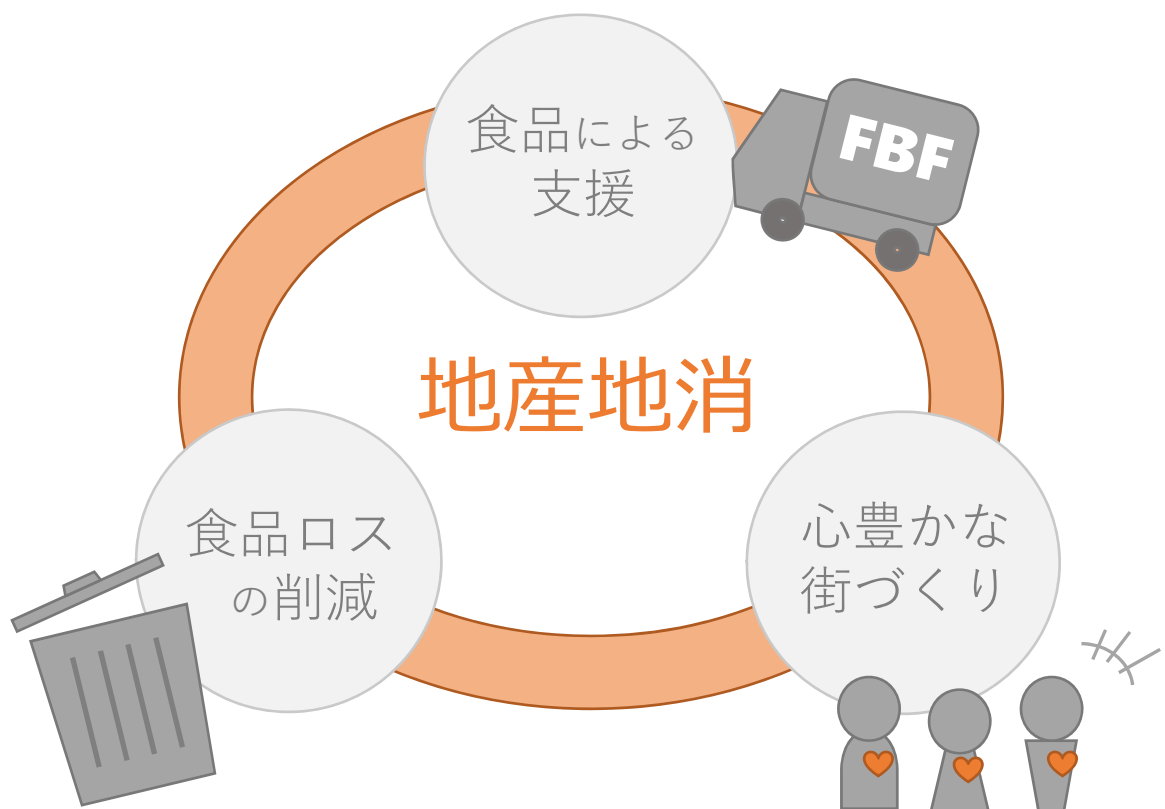
『もったいない』をなくし、
『おすそわけ』を当たり前。

たくさんとれすぎた家庭菜園の野菜や、お中元やお歳暮の食べきれない食品を近所に配ったり、町内会で困っている世帯をみんなで支えることが、ごく自然に行われる社会を創りたい。

フードバンクは、「食品を提供したい人」と「食品を必要としている人」をつなぐ役割を果たしています。この「食品をつなぐ」ということには『信頼関係』がかかせません。知らない人・信頼できない人から食品を渡されても、誰も口にしないでしょう。

今、食に関するセーフティネット構築において、フードバンクが注目を集めています。食をつなぐ最小単位は「信頼できるご近所付き合い」であると考えます。

私たちフードバンク福岡は、食のセーフティネットを支えるフードバンクの仕組みをつくることをはじめ、食の地産地消が地域に根差し、食品がムダなく活用され、誰もが新鮮で安全な食品を分かち合える豊かな社会づくりを目指しています。

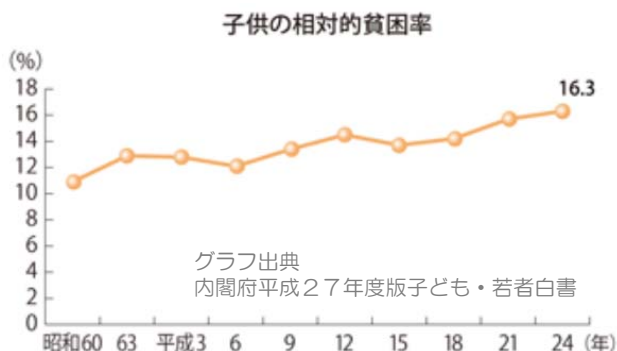


◇私たちの身近にある貧困◇

食べ物に困っているという私たちは先ず発展途上国の子ども達を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、厚生労働省が行った「平成25年国民生活基礎調査」により、平成24年時点における日本の子どもの相対的貧困率は16.3%に上がることが明らかになりました。これは、日本の子どものおよそ6人に1人が貧困状態に置かれていることを示しています。



子どもの約6人に1人が貧困状態

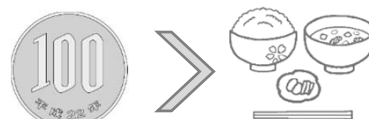


相対的貧困率は貧困線以下の世帯を指し、平成24年の貧困線は122万円でした。家賃や水光熱費を含む1か月の生活費が約10万円ということになります。特に、ひとり親家庭に限ってみると、貧困率は54.6%と半数を超えています。NHKがフードバンク山梨らで行った調査では1人当たりの1日の食費が300円に満たない家庭が半数近くあり、8割以上がおかずを十分に確保できず子供に栄養不足などが見られるといます。

ひとり親世帯数(母子世帯等調査)

25年間で、母子世帯は1.5倍、父子世帯は1.3倍

母子世帯数(注) 84.9万世帯 → 123.8万世帯 (ひとり親世帯の約85%)
父子世帯数(注) 17.3万世帯 → 22.3万世帯 (ひとり親世帯の約15%)
(昭和63(1988)年度) (平成23(2011)年度)



1食あたりにすると…

出典：厚生労働省資料「ひとり親家庭の現状について」

福岡県におけるひとり親世帯の年間収入(税込)

	収入はない	100万円未満	100万円～150万円未満	150万円～200万円未満	200万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～700万円未満	700万円～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答	平均額(万円)
母子家庭	14	123	189	168	257	103	59	36	16	03	32	236
父子家庭	22	62	39	99	211	196	108	142	50	12	59	367
養育者家庭	39	168	97	174	219	84	52	45	19	19	84	251

(平成23年度 福岡県母子世帯等実態調査)

※ 年間収入(税込み)の平均額は、「100万円未満」は50万円、「100万円～150万円未満」は125万円など、それぞれの中間値をとり、「1,000万円以上」は1,200万円とし、「収入はない」と「無回答」を除いた標本数で算出したものである。

◇廃棄される食品という課題◇

様々な理由で廃棄される食品（福岡県内の事例より）

まだ食べられる食品であっても、以下のような様々な理由により、多くの食品が捨てられています。福岡県では年間に25万トン（事業系12万トン、家庭系13万トン）の食品ロスが発生しているとされています。



検査で袋が開けられ
流通できなくなる。



輸送途中で箱が傷が傷
み販売できなくなった。



季節商品の売れ残り



賞味期限、消費期限



農家で収穫する人
がいないため廃棄



規格外品



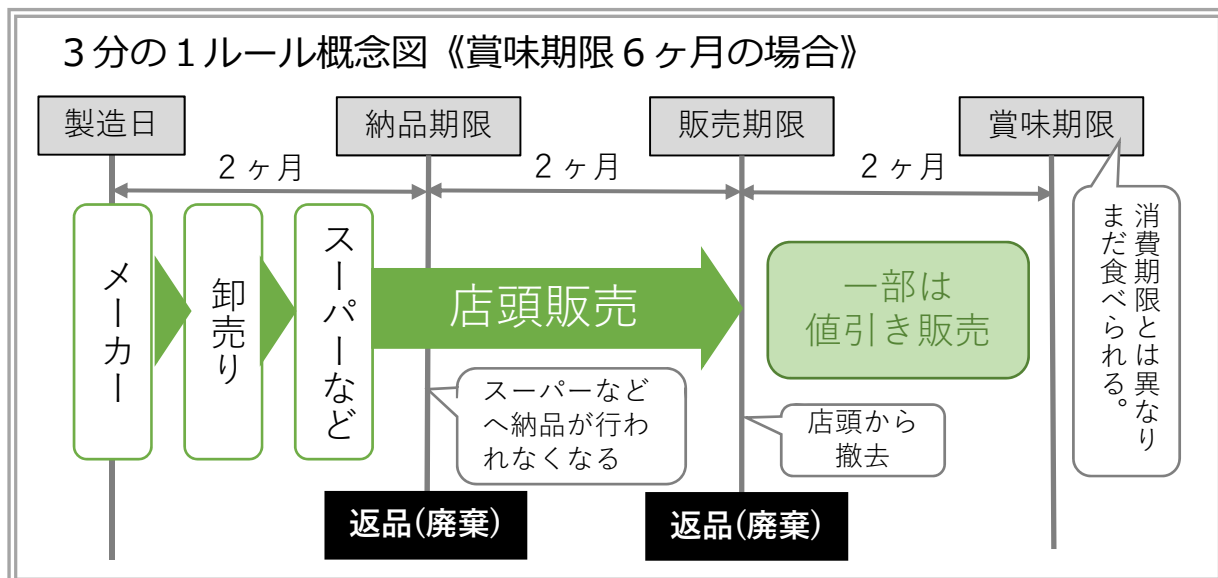
余剰生産

- 展示会やイベント、スポーツ大会などで余ったもの
- 定番商品のカットによる在庫
- 災害備蓄品などの入れ替え

3分の1ルールの問題

食品流通業界の商習慣で、賞味期限の3分の1が小売店への納品期限、3分の2が小売店での販売期限とされています。期限を超過した商品は返品されるか多くは廃棄されてしまいます。

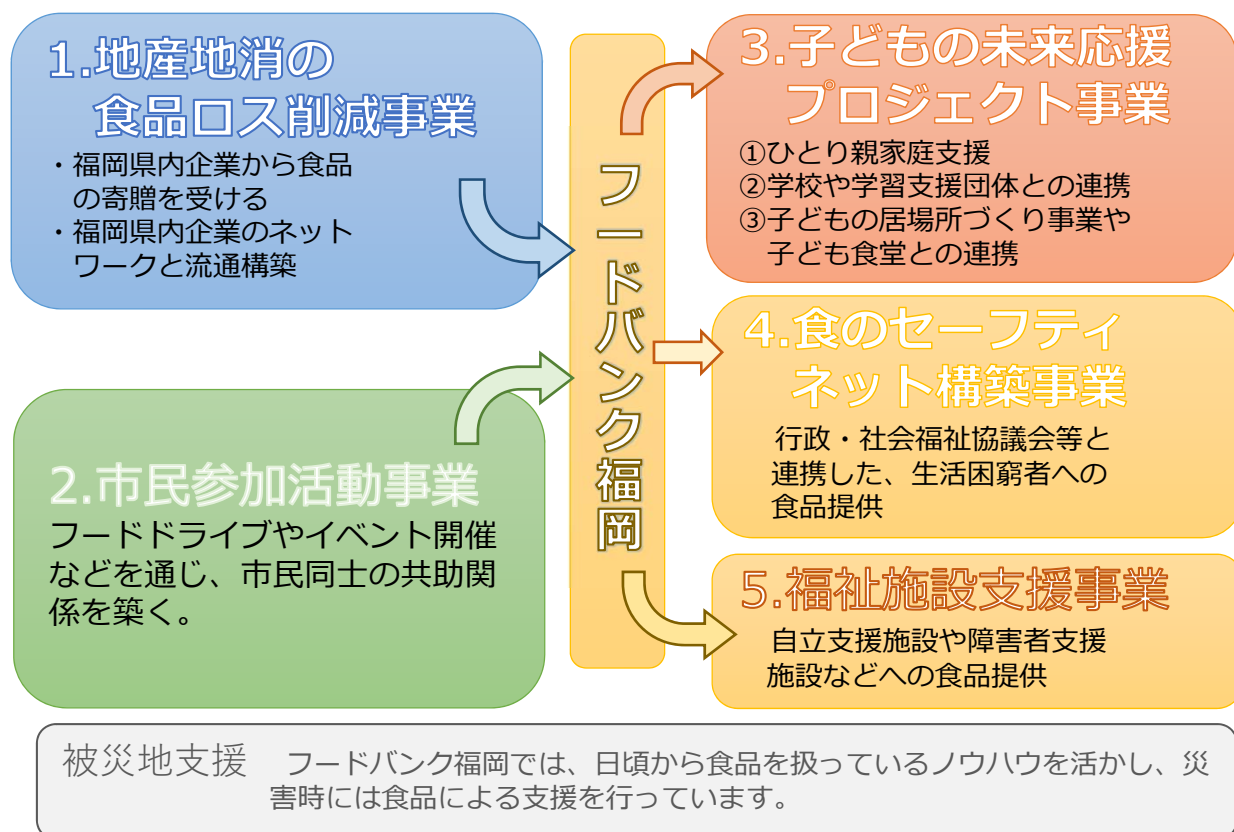
業界団体はこの商習慣の見直しに取り組んでいます。消費者である私たちも、過剰に新しいものを求める「鮮度志向」に陥っていないか省みる必要があります。



◇設立の目的◇

この団体は、まだ食べられる食品が多く捨てられている現状において、企業や農家あるいは個人から食品を提供してもらい、必要としている福祉施設や個人に届けることで、食品ロスの削減と生活困窮者の支援を行うとともに、食べ物を大切にする意識の醸成を図り、食を通じて人と人とが繋がり、お互いを助け合い、分かち合う心を育み、誰もが尊厳をもってその人らしく暮らし、働くことが出来る社会を作ることを目的とする。

◇5つの事業◇



◇食品取扱実績◇

○食品提供企業 21社



フードバンク福岡では、福岡県リサイクル総合研究事業化センターの協力を得て、食品提供企業の開拓を行っています。

○食品取扱量 8,811kg (2016.4～11月実績)

○食品提供先

- | | |
|-----------------|------|
| ①福祉施設・生活困窮者支援団体 | 20団体 |
| ②生活困窮者個人への提供 | 16世帯 |

◇食品提供企業の想い◇

フードバンク福岡にソーセージやハムを提供してくれている(株)九食の西島社長にインタビューさせていただきました。

食品提供をはじめたのは、計画生産から発生する余剰や規格外品がもったいない、どうにか役立てることができないかと思案する中で、フードバンクを知ったのがキッカケとのこと。当時、福岡にフードバンクはなく広島まで社長自ら車を走らせていたそうです。



(株)九食 西島社長

もったいないから始まった食品提供でしたが、今の日本に食べ物に困っている人や子ども達がいるという事実を詳しく知るにつれ、今日では積極的な支援や地域貢献として欠かせない活動となっているとのこと。

◇受け取り先の声◇

皆さまからお預かりした食品を受け取られた方から、沢山の喜びの声や感謝の言葉が届いています。ここでは、ほんの一例ですが受け取り先の声を紹介します。

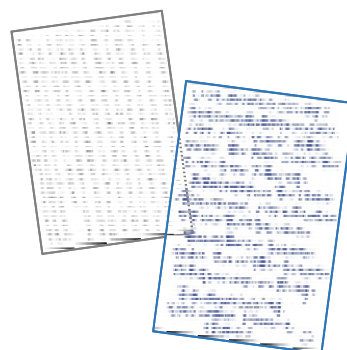
○子どもの居場所づくり団体

長期休暇中には家でほとんど食べていないのか、バナナを5本以上食べた子もいました。皆さんの温かさが子どもたちに伝わり、きっと優しい子どもたちに成長するのではないかと思います。

○個人の方

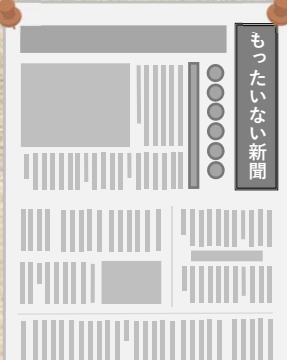
支援をしていただく前は、主食はパンの耳、たまに安く手に入れた古米のくず米を、肉は、半額とか鶏ガラ、魚はアラ（骨）しか買わず、それも1パックを4、5日かけて食べていました。

賞味期限前の立派な食品をお腹いっぱい食べることができて、フードバンクさんには感謝の日々です。



◇メディア掲載◇

フードバンク福岡の活動は新聞等のメディアにも取り上げられています。



◇2016年10月15日毎日新聞
『フードバンク福岡活動広がる』
子ども食堂運営団体に提供、困窮者の生活再建にも一役

◇2016年10月2日読売新聞
『フードバンク広がる』食品ロス防ぎ困窮者ら支援

◇2016年8月29日西日本新聞夕刊
『学校で朝食を心も満たして』フードバンクと連携、無償食品ロスへの意識高まる

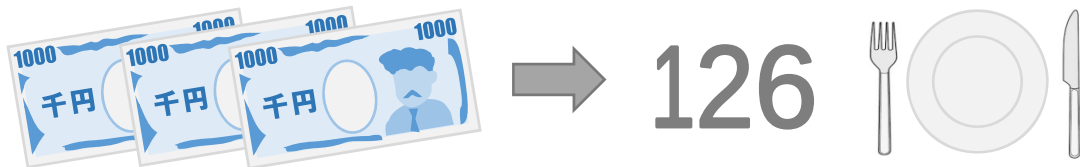
◇支援の方法◇

フードバンク活動は無償で寄贈いただいた食品を、無償で必要とする方に提供しており、活動自体で収益を上げることができないため、食品をお届けするための送料や運営費などを寄付に頼らざるを得ません。

ぜひフードバンク福岡の趣旨に賛同される方はサポーターになって下さい。

○お金の寄付によるサポート

安定したフードバンク運営のために継続したご支援をお願いします。
3,000円の支援により、126食分の食品を届けることが可能です。



正会員	年会費1口	個人5,000円	団体20,000円
賛助会員	年会費1口	個人3,000円	団体10,000円
振込先	ゆうちょ銀行	口座記号番号	01750-7-167525
		口座名義	フードバンク福岡

○食品の寄付によるサポート

フードバンク福岡へ食品の寄贈をいただく場合には、以下の手順となります。まずは事務局までお問い合わせください。

内容確認	合意形成	集荷・配送	完了報告
・品目 ・数量 ・荷姿 ・賞味期限 ・寄贈理由など	寄贈先、取扱数量、受け渡し場所、時間、受け取り方法について協議の上、合意に至った場合には合意書を締結。	フードバンク福岡が作成する食品管理表を基に配送計画表を作成し、食材の集荷・配送を行う。 場合によっては、フードバンクにて一時保管。	配送完了後、食品管理表へ帳票入力を行い。 配送実績を報告書として寄贈者に回答致します。

フードバンク福岡で取り扱える食品・取り扱えない食品

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 缶詰などの加工食品 ➤ 野菜・果物などの生鮮食品 ➤ 防災備蓄品 ➤ 米・パンなどの穀物 ➤ 冷凍食品など | <ul style="list-style-type: none"> ➤ お弁当・サンドイッチ
(販売期限と消費期限の間隔が近すぎて配達できない) ➤ 食べ残し(衛生上の問題) ➤ 賞味期限が切れているもの ➤ 消費期限が記載されていないもの |
|---|---|



○ボランティアスタッフとしてサポート

皆さまの特技や能力を活かして活動を支援していただくことができます。

1. 食品を運ぶ

食品の受け取り、配達、拠点間の運搬など、食品を必要な場所に運びます。

2. 食品の管理

寄贈された食品の仕分け、箱詰め、お米などの袋詰め、シール貼り、保管等を行います。

3. 事務作業・イベント・広報

パソコンを使った食品管理、会員管理、チラシやニュースレターの作成、SNSによる広報、フードドライブなどをお手伝いください。

4. 資金調達・会計

助成金申請やファンドレイジング、会計などの経験をお持ちの方はお手伝いください。



○団体・企業によるサポート

食品の提供やお金の寄付、ボランティア以外にも企業・団体の皆様だからこそ協力いただけることがあります。

1. 備品や機材寄付

- 冷蔵庫・冷凍庫（業務用ストッカー型）
- 搬送用車輛
- クーラーボックス・保冷剤
- 事務用品（P C、プリンター、コピー用紙等消耗品）

2. 食品運搬のご協力

食品関連企業でなくても貴社の物流ネットワークを活かした食品運搬や事務所・倉庫スペースを活用した商品の一時保管など、貴社の強み活かした社会貢献活動をしませんか。まずは気軽にお問合せください。

3. 食品保管庫、事務所スペースの提供 **急募**

業務の拡大に伴い事務所スペース及び食品保管スペースの確保が喫緊の課題となっています。食品の保管、仕分けを行うためのスペースを提供していただけませんか。ぜひ、ご検討ください。

事務局（連絡先）

〒812-0043 福岡市博多区堅粕4丁目1番12号嶋井ビル2階21号
特定非営利活動法人ワーカーズコープ福岡支部内（担当：高橋）
TEL 092-441-7587 FAX 092-441-8281
E-mail fb-fukuoka@roukyou.gr.jp

FOOD BANK FUKUOKA

初版 平成28年12月発行
